

5月といえば「こどもの日」
おとなとこどもの笑える毎日を描く

漫画家 たかまこさん インタビュー

『広報たかはま』は後ろから開いて4コマ漫画から読む

そんな人も多いのでは？連載中の「おとなもこどもも」は、「たかはま子ども市民憲章」の啓発を目的に、市内在住の漫画家・たかはまこさんが、市民の皆さんから寄せられたエピソードをもとに描いています。憲章の誕生10周年を記念して、これまで連載した82本を掲載した冊子もできました。

子育て漫画家として、世のお母さんたちから絶大な支持を得てきた漫画家・たかはまこさんにインタビューしました。



たかはまこさん
高浜市生まれ。1981年少女漫画家としてデビュー。長男誕生後、子育ての毎日をテーマに描いた作品が話題になり「子育てマンガ」というジャンルを代表する漫画家の1人に。主な作品は「たたかえ！お母さん」（ベネッセコーポレーション）、「B級ママでいこう！」（主婦の友社）、「笑うママの生活」（竹書房）

市民の皆さんからのマンガのアイデアの印象は？

おもしろいですよ。エピソードの展開に苦労することもあるんですが、フロとしてオチをバッチリつけて、よりおもしろく紹介したい！という気持ちで描いていますから、皆さんには安心して気軽に応募してほしいと思います。約80本描いてきて、どこの家にも、どの子にも、ほえましく笑えるエピソードがあるんだなあ、と改めて思います。ジャケットを2枚着せちゃったという話には特に笑わせてもらいました（笑）。

（平成22年3月1日号掲載）



たかはまさんが爆笑してしまったというエピソードの作品。出かける間際の親のドタバタと子どもの何食わぬ顔がおかしい。

90年代、「子育てマンガ」というジャンルの先駆けとられましたね。

少女漫画でデビューし、子どもができるまでは、恋愛マンガを描いていたんです。育児中も数本描いたのですが、なんとなくしっくりこなくて、育児体験をネタにした方が笑える作品が描けて、そちらの方が評判になりました。育児のグチャグチャや苦労を含めて「笑いにしよモトをとってやる！」って感

じだったんですけど。恋愛マンガ？いつしか依頼がこなくなりました。（笑）
お子さんも大きくなり、最近はネタになることも少ないですか？

大きくなっても同じぐらい笑えますよ。すでに、子どもとの生活の中でネタを探すのが習慣になっていて、おもしろいと思ったらすぐに書きとめていきます。今では子どもたちの方からマンガのネタになったりかかったり自分の姿を「おもしろかったよねえ。」なんて話題にすることもしばしばです。

「たかはま子ども市民憲章」を読んだ感想は？

みんなとつよつよじゃない子もいるんだよ、ということを知ってほしいなあという想いを子育て真っ最中のころから抱いていて、この憲章にはその部分がいかがやしく表現されているのがいいなと思います。みんなとちよつとちがう個性

の持ち主だった長男には、なんとかほかの子たちと同じようになってほしいと、習い事やいろいろな機会を与えてみたけれど、結局、本人が嫌がったことは身につかず、今は高校時代に夢中になったことを職業にしたいと頑張っています。

私自身、この子はこういう個性の人なんだって認識してからの方が、おだやかに子どもと向き合えたような気がします。

この4コマ漫画で発信しているメッセージは？

私は常に「おとなとこどもの視点はちがう」ということをテーマにして描いています。すれちがいがどうしても生じるんだけど、それが「笑い」になるのは「愛」があるからこそ。笑えないときもたしかにあります。が、そんなときはひとりで抱え込まず、なんだかマジメなことを言っています（笑）、やはり誰かに話すことで、また「笑い」に変えたりできるんじゃないでしょうか。

おとなにも、自分を認めてくれる存在が大事なんじゃないかな。私はだいたい子育てがおわったけれど、やっぱり、子どもっておもしろいなって思う。子育て真っ最中の方こそ、子どもとの毎日を楽しんでいただきたいなと思います。